

会報「榊葉」第11号
 昭和60年10月9日発行
 発行者 森本 巖 会
 編集 広報 委員
 発行所 津市鳥居町 内
 三重県神社庁
 三重県神道青年会

● 祝
 奉 天皇陛下御在位六十年



金銅五鈷鈴(多度神社蔵)



挨 拶

会 長

森 本 巖

このたびの役員改選により、はか
 らずも会長に選出され、責務の重大
 さを痛感する次第です。

さて、私共は、定例総会において
 決議いただきました活動方針並びに
 事業計画に則り、その実践に邁進し
 ていきますが、就中、青少年の教化
 育成の一環として実施しております
 「お宮の子供会」が、本年度第十回
 という節目を迎えます。昭和五十一年に「神職子弟の集い」として開催され、第二回から「お宮の子供会」に改称、対象を氏子子弟に拡げて、年々その実をあげ、今では参加者五十名余と益々盛大になってきました。これも先輩諸兄の努力の賜物と感謝申し上げます。教育の正常化が叫ばれている今日、青少年の教化育成は我々の責務であります。今後益々内容を充実していきたいと思いま

す。
 本年は御即位六十年の記念すべき年に当ります。県神社庁において記念行事を計画しておりますので、本

会としても協力を惜しまないつもりです。

神宮の式年御遷宮につきましては昨春、その諸準備について陛下の御聴許を賜わり、本年五月から諸祭・行事が始まりました。六月に行なわれました御種代木の奉迎・奉曳には会員多数の御奉仕をいただき御礼申し上げます。これからも御奉賛の誠を尽したいと存じます。

本年度は東海五県の当番になります。八月末椿大神社を会場に五県連絡協議会教化研修会を開催すべく、充分な準備を進めておりますので、一段の御支援御協力をお願いいたします。最後に、神青会が自己研鑽の場であり、情報交換の場であるとの認識に立ち、会員一人一人が積極的会活動に参加し、深い理解とそれぞれの使命を自覚して一致協力して諸問題に対処していかうではありませ

(引本神社宮司) 七月一日記

神宮式年御遷宮スタート 御樋代木をお迎えして

馬場 明 徳

神宮式年御遷宮の御樋代木は長野県上松町、岐阜県付知町から沿線各地で盛んな奉送迎を受け、六月九日午後五時三十分、桑名市の伊勢大橋詰め、両コース合流した。そして、三重県入りした午後五時五十分より旧七里の渡しから桑名市本町の桑名・中臣神社まで、石取祭祭車計十一台に前後を守られて神社関係者、桑名市民がお木曳きし、沿道を埋めた約二万人の市民らから盛んな奉送迎を受けた。同社境内奉安所に、宇治土公神社庁長を始め御神木奉送迎奉賛会長水谷桑名市長、並びに各界代表、神社関係者らが参列して、中村桑名支部長斎主となり奉送迎祭が斎行された。

御一泊された十日午前七時、皇大神宮、豊受大神宮用材と積みかえ、午前八時十五分奉送迎祭を斎行の後、同八時五十分に出発。国道一号线、国道二十三号線を経由し三重県護国神社へ。途中三重郡・四日市市・鈴鹿市支部の神社関係者をはじめ県民の奉迎が列をなした。



午前十時四十分護国神社に到着。奉送迎祭を、護国神社小林称宜斎主となつて斎行。宇治土公神社庁長を始め、津市御神木奉送迎奉賛委員長乙部一巳氏、神宮御遷宮用材奉曳団本部連合会奉曳本部長伊勢市長水谷光男氏、並びに神社関係者多数が参列して斎行された。

人々が出迎え、ここから神職が副従、途中、国鉄伊勢駅、宇治橋前では伊勢音頭の奉迎をも受けた。宇治橋前に到着した御樋代木は、五十鈴川の鳥帽子岩で川ぞりに積みかえられ、五十鈴川を川曳され、風日折宮御橋の下手附近で陸揚げされて、午後七時過ぎ五丈殿に無事安置された。

一方、豊受大神宮の御樋代木は護国神社に御一泊され、十一日午前九時奉送迎祭の後伊勢に向つて出発。津市中町の国道二十三号線交差点では、これを待ち迎えていた津市奉賛会長町野三重県氏子青年会長他三百人の木遣り音頭に合わせ一斉に綱が引かれた。

また、奉曳を歓迎して地元民芸保存会が八幡獅子、しゃご馬を繰り出し、沿道の人々に舞を披露しながら先導を勤めた。中町から京口までの道沿いは、日の丸の小旗を振る人、シャッターをきる人で埋まり歓迎され一路伊勢市へ向つた。途中、松阪裁判所前で、松阪附近の神社関係者の奉迎を受け、さらに宮川の度会橋東詰で神宮御当局の出迎えと奉曳団の本部長、伊勢市、度会郡両支部の神職総代、敬神婦人会、氏子青年会等の奉迎を受けた。

このあと一本だけをこのたび新調した神宮のジャンボ奉曳車に積み替え、揃いのハッピー姿の神宮奉仕会員、仰(神社神道)を理解してもらい、今よりさらに深く広く、国民否庶民の心の中の支えとなり、永遠に残されていくことができこそ、御遷宮の成功といえるのではないだろうか。この成功に向けて、少しでも非力な私ではありますが、諸先輩方と共に努力していきたいと思つています。(川上山若宮八幡神社禰宜)

奉仕会員

岩崎 均

神社に奉職して早くも三ヶ月が過ぎた。短い間にいろいろな事があり、たくさんの人と出会った。この世界に入らなければ経験できないような事もあった。なかでも特に印象深いのは、第六十一回神宮式年遷宮御樋代木奉曳式である。六月九日夕から十日朝にかけて、桑名宗社奉安所における御樋代木の警護に、神道青年会の一員として加わらせてもらったのである。

九日は桑名の石取祭も同時に行われ、早くから大勢の人たちで賑わっていた。五時を過ぎる頃になると、鐘と太鼓とが鳴り響くなか、お伊勢さんの御神木を一目見ようと集まった人たちが桑名宗社の前はいっぱいになった。六時すぎ、内外宮それ

ら約五百人によって木遣りに合わせ陸曳され、無事五丈殿に安置された。(三重県神社庁主事)

奉仕会員

吉田 義隆

第六十一回神宮式年遷宮に御神体を奉安する御樋代木が、去る六月九日午後五時すぎ、(長野・岐阜・愛知を経て)三重県入りした。我々神道青年会員は、森本会長はじめ約四十人が奉仕することとなり、北勢地区の会員は桑名宗社に、また、中勢・南勢・伊賀・南紀地区の会員は三重県護国神社にて御奉仕申し上げた。

九日午後五時三十分、愛知県・岐阜県より伊勢大橋南詰で合流した二台の御料車は、車列を整え白バイを先頭に七里の渡しまで進み、同所より御料車に長さ五十メートルの引き綱を取り付け、一輛目は桑名宗社の氏子や県神社総代会員ら四百人、二輛目は北勢地方の神社関係者ら四百人、計八百人が約七百メートルの間を奉曳した。そのあとに続いて石取祭車十一台が繰り出し、「ゴンゴンチキチキ」のカネや太鼓の賑やかな囃子にお木曳き行事は一層盛り上がった。午後七時、桑名宗社に着いた御料車

それぞれの御樋代木を積んだ二台のトラックが到着すると、集まった人々の中から萬歳三唱と拍手とおこった。その拍手と興奮とに包まれて二台のトラックは、桑名宗社内に設けられた奉安所へと入っていく。午後七時、奉送迎祭が厳粛に斎行されている。鳥居の外では、十一台の石取祭車から繰り出される太鼓と鐘と喚声とが響きわたっている。祭りは最高潮に達していく。町中が「まつり」に酔いしれている。

翌十日、夜明け頃心配された空模様も、御樋代木の積替作業が終わわり、奉送迎祭が始まる頃には、雲一つなく晴れたり、うっすらと汗ばむ程であった。この日も早朝からたくさんの人々が見送りにつめかけていた。午前八時五十分、奉送迎祭終了後、花火が打ち上げられ、到着した時と同じように、萬歳三唱と拍手とに包まれて二台のトラックは、内宮用材は伊勢へ、外宮用材は護国神社へとそれぞれ出立していった。集まったたくさんの人たちも私も、そこに居合わせた者は皆興奮していた。感激で胸がいっぱいになった。この世界に入つてまだ僅かしか経っていない私のような者が、このように「大いなるまつり」に参加できたのは本当に幸運であった。(椿大神社出仕)

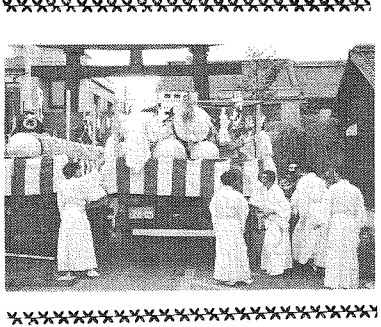
は、御神木を積んだまま奉安所に移り、奉送迎祭が斎行された。終了後青年会員は二人一組となり、一時間交替で翌朝まで厳重なる警護を御奉仕した。

翌十日午前七時に御神木の積み替え作業が行われ、奉送迎祭の後多くの参拝者に見送られて同社を出発した。青年会員も御神木の先導、広報車・随従車の運転を奉仕、国道二十三号線、一号线を走り、途中四日市々、鈴鹿市の沿道では、たくさんの人々に丸の丸の小旗で送迎されながら、午前十時四十分、津市の三重県護国神社に到着した。御遺族関係者多数が参列しての奉送迎祭の後、外宮の御神木は同社で御一泊、内宮の御神木は祭典終了後直ちに出発し、午後一時すぎ伊勢市の渡会橋東詰に無事到着した。(伊奈富神社司宮)

奉仕会員

岡野 清彦

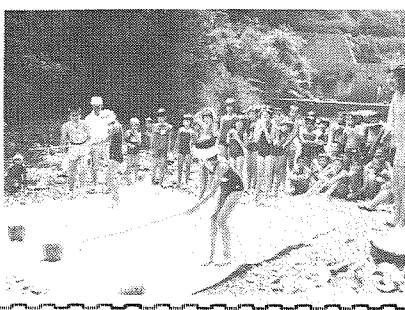
この度は、神宮式年御遷宮の、最初でも最も神聖とされます御樋代木の警護・奉搬に奉仕させていただきました。又、特に弱輩な私に先導神職の役目まで奉仕させていただきました。光栄と感激の至りです。初めて御神木を目のあたりにして



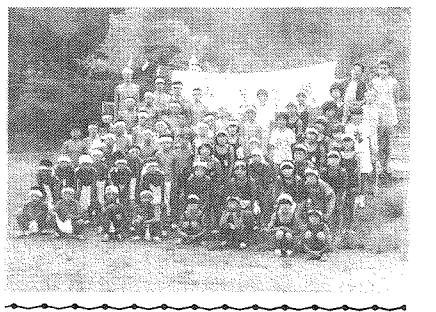
第九回 お宮の子供会 桑名郡多度神社にて開催

実行委員長 瀬尾好弘

連日の暑さ厳しい中で「お宮の子供会」が八月七日より九日まで開催されました。場所は多度神社とその周辺、多度山頂、多度峽などで六十五名に上る参加者を得てのキャンプ開催でありました。今年も自然の中で皆が体力を出きるような何か変わった行事と想っているかと考えておりましたが、開催までの期間も短かく例年と違った事はなかったようでありましたが、山や滝、川の流れを塞ぎ止めた天然プールといった自然そのままを楽しんで頂けたのではないかと想っております。第一日は神社にお参りした後、多度山頂めがけて登って行きました。山頂まで一番の近道ではありませんでしたが、きびしく険しいところなので着いたときには皆汗ぐっしょりかいてしまいました。山頂ではテント張り、夕食はカレー、その後きもだめしでは子供達の中に毎年のように参加されている子供などが多く、もうこの辺でお化けに変装した神青のお兄ちゃんたちが出てくるぞとばかりに恐がらない様子の



子供もいました。この辺は木曾三川による水に恵まれたところで、山頂から眺める夜景はとてすばらしく奇麗な所でもあります。二日目の夜のキャンプファイヤーを待ち焦れる静かな夜でありました。次の夜キャンプファイヤーは一際、星も輝き夜景がすばらしく見える夜で、松明を先頭に、各自手作りの行燈を持って火のまわりに円を作り、薪に点火された火が次第に強く燃え上がるまわりでゲームをしました。お兄さん方の言うことばに従って「右手あげそ



のまま左手を上げない」というゲームでは詞に惑わされ思わず左手を上げてしまうような子供等。あとのバツゲームを照れて恥ずかしそうな様子で、その仕種も可愛いらしい子供たちでありました。キャンプファイヤーも終りに近づき消えゆく火を眺めながら「ひと日の幸」をハミングする子供等の心の中に何かが残ったようでありました。子供会最後の日は山を降り昼には解散となりました。この期間中天候に恵まれけが一つ無く無事終了させて頂きました事、はからずも実行委員長となりました私に、格別のご協力お力添頂きましたら、皆様の皆様方に衷心より厚くお礼申し上げます。お宮の子供会の報告とお礼のことばにかえさせて頂きます。
(多度神社権柄宣)

新入会員歓迎 ソフトボール大会

庄 武 宏

この度は我々新入会員のために、ソフトボール大会を開催して下さいまして、誠にありがとうございます。

当日は晴天にも恵まれ、絶好のソフトボール日和のもと、久々にスポーツを楽しむことが出来、その上、優勝までさせて頂きました。

また、高校時代のクラスメート、大学の頃の友人とも久しぶりに会うことが出来嬉しく思いました。

それに、県内の神社に奉職しておられます先輩神職の方々ともお知り合いになれば、とても有意義な一日でありました。

しかし、神社には休日がありませんから、一部の方々とはお目にかかることが出来なかったのが残念です。

その意味から、スポーツに限らずこういう機会を何度か設けられることによって、同じ道を志す者同志交流を深めていくことが必要だと思います。そして、このことは、一神社の発展に留まらず、神社界全体の発展にもつながると思います。
(猿田彦神社出仕)

の優賞 南勢チーム

第七回 護国の英霊奉斎の 奉仕について

奥野浩史

護国神社の英霊合祀祭は三月二十五日、御遺族十一名御参列のもと宇治土公宮司を斎主とし、護国神社神職、神青会員の奉仕により斎行されました。神青会員の奉仕は昭和五十八年より始まり(昭和五十八年は御造営の為中止)今回で七回目となります。

祭典は小雨の降る午後六時より始まり、七柱の御英霊を新たに、また、他県護国神社に奉斎されておりました御祭神(御英霊七柱)を招魂合祀申し上げました。

祭典終了後、宇治土公宮司は御遺族の方を前にして、ピラミッド・ツタンカーメン像等の例を挙げて、古代栄華を極めたエジプト国王の墓も今では観光の為の見せ物になってしまっている惨状を語られ、それと比して、神として祭られている日本の御英霊の奉斎状況の重要性、今後奉斎していく上での決意を述べられま

した。このお話は御遺族の方からもより、我々神職も大いに感銘を受けるものがありました。英霊の遺産により今の日本の安全があるということとを改めて自覚させられました。今にして御英霊に應える道はいろいろとあります。靖国神社公式参拝の問題・教科書是正の問題等の解決もこれにあたると思います。しかし、最も大切なのは祭祀であります。国のために「と一命を捧げられ、日本の平和を守ろう」とされた御英霊の御意志を継いでいく意味に於いても、御英霊を奉斎していくという事は大切であると思えます。特に、明日の日本を担って行かなければならない青年神職が、この祭典に奉仕するという事に大きな意義があるのではないのでしょうか。今後も神青会員が心を込めた奉仕を続けていかねばならないと思えます。

(頭之宮四方神社権柄宣)

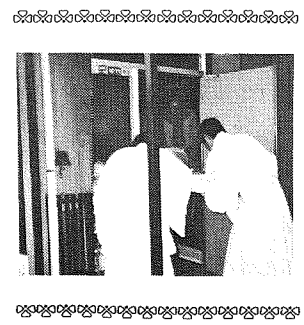
第二回 神宮大麻頒布 実施について

前川 栄 次

「団地対策」並びに「神社振興対策指定神社支援活動」の一環として当時モデル神社に指定されていた当神社の氏子区域内の「江島団地」を対象に活動を進め三回を数える事になりました。

この活動を始めて以来、団地の人々の「神様」「神社」に対する関心は、大いに高まり、事実、五十九年の春には、子供会中心に、団地内自然公園に於いて、神籬祭典後、子供神輿が団地内をまわり、盛大におまつりが行なわれるようになりました。このおまつりが実施されるようになったのも、大麻頒布活動に於ける会員と団地の人々の対話の中から生まれたものだと思います。

今後、八〇%、一〇〇%へと大麻を奉斎していただく為に、益々努力を重ねさせていただきます。会員の皆様には、心から御礼を申し上げます。
(江島若宮八幡神社宮司)



退任の挨拶

御国を思つて

前会長 富永主税

二期・四年に亘り、三重県神道青年会の会長職とし大過なく務め得ましたことは、会員諸兄の御支援、御協力の賜ものでして、今、はっと小さな胸を撫で下ろしているところでありませぬ。

対内外の年間諸行事を計画・実行してゆく中、委員会制の復活、充実を目標に、会員各自の自覚と協力を推し進める努力をなしてきたつもりです。「言ふは易し、行ひは難し」。青年会の特権は行動的でない限りはなりません。また、将来も神社庁傘下の指定団体としての行動が望まれることが適しておろうと思われませぬ。それは、神社界として、三重県は他県に比べ諸先輩の足跡、同時に支援や理解の大きき、神宮御膝元県としての優位さがあることを痛感したことであります。幸いにも、この間に全国理事の経験をも積ませて頂きましたお蔭で、「三重」の良さを理解することができました。

ある研修会にて、偶然にも会員と共に宮中三殿を参拝・拝観させてい

ただきましたことが特に意義深く「百聞は一見に如かず」体験の一端を述べて、共に将来の研究といたく思ひます。

昨今、皇太子殿下・同妃殿下御成婚二十五周年、天皇陛下御在位六十年、歴代天皇長寿記録記念、また、終戦四十周年に当り、アメリカよりの秘密文書公開等々マスコミを通じ皇室関係の記念放映が続き、日本の戦後の歴史が明らかにされてゆく中「陛下の貴人」は平和を愛され、日本国の再建に一番御努力なされた御心が偲ばれ、今日、日常の御生活ぶりに生き続けられていることを知り得ました。

敬神崇祖の真心より陛下のお言葉を賜わり、第六十一回神宮式年遷宮の準備に取りかかり、過日は御植代木の搬入行事も無事に完遂することが出来ました。式年遷宮に向けて国民総奉賛を目ざし、経済面のみでなく、遷宮の心を守り伝えるべく努力せねばならぬ我々ではあります。神宮と共に宮中諸施設の老朽化も目

にあまり、御不自由でいらつしやるだるうとお察し申し上げた次第です。戦後世帯が国民の半数を上回る今日、神宮・皇室や国家といった事に対する国民意識は甚だ稀薄になってきています。マスコミを通じての記念放映等が単なる趣味趣向であつてはならず、陛下の御心に通ふべく報道活動をされるよう強く要望し、我が国ぶりの再認識の一波を投じる活動をしようではありませんか。

(志氏神社宮司)

第2回 植樹祭

鈴鹿・伊奈富神社にて開催

本会の活動の一つとして取り組んでいる「緑化推進運動」の第二回植樹祭が、三月二十九日、鈴鹿市に鎮座する伊奈富神社(吉田義隆宮司)で斎行され、参列者に神宮杉の苗木がそれぞれ配布され、北勢地区各神社の境内に植えられた。

昨年四月に、中勢地区神社総代会研修会に合わせ、津市の比佐豆知神社で第一回植樹祭が斎行されたこの運動であるが、宇治土公貞明前総務委員長の下に綿密に練られた五ヶ年に亘る実行計画により、「お宮の森」



(総務委員会)

が担う役割を多目的に把握し、失なわれつつある「お宮の緑」を保護し、その重要性を訴えようというのがこの活動の原点である。

第二回植樹祭は、鈴鹿市支部の総会が開催されている伊奈富神社に、神道青年会の「植樹祭」がおしかける形となったが、参列者の理解と盛り上がりは高く、神職、総代の方々によって、頒布された苗木が各地の神社にも植えられた。

神宮式年遷宮に向けて(II)

御植代木について

渡辺修

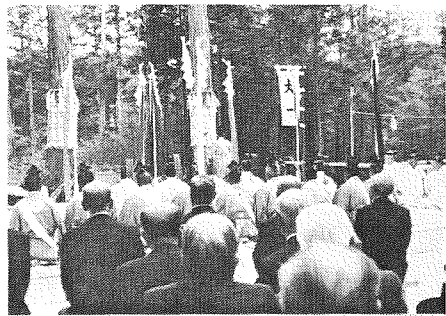
神宮の式年遷宮は、天照大神の新生をねがい、二十年ごとに、古式にのっとり神殿を造替し、御装束神宝を調進した上、大御神をお遷しする祭典です。

その御造営用材を伐りだす山を御植代木と称します。

平安末期における「遷宮例文」の正規によりますと、式年の少し前に造神宮使が頭工を率いて御植代木入り、千人にあまる役夫をして伐採や運材に従事せしめられたとあります。

今日もその伝統を固く守り、遷宮斎行を八年後に控えた本年五月に、山口祭と木本祭が執り行なわれました。六月には御植代木と御植代木奉曳式等、御植代木に関する諸祭・行事が続いて執り行なわれました。

御植代木は、長野、岐阜両県で御植代木と御治定を仰いだ木曾山で、御用材伐採着手に当り、先ず御植代木に坐す神にその由を申し上げ、作業の安全を祈り奉って、代表の木を伐採する祭典が御植代木祭です。伐採される代表木は、新殿で神儀を奉安する

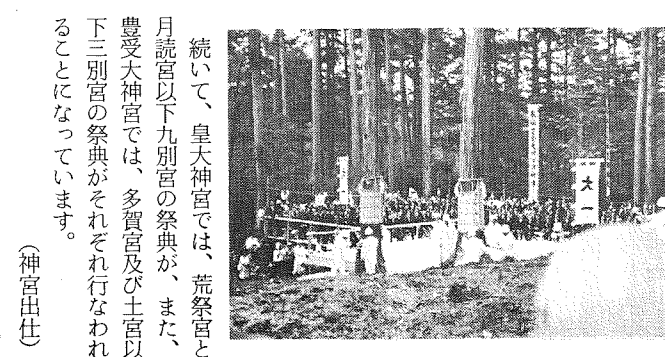


御植代と申し上げる御器を奉製する、御植代木と呼ばれる松材で、一万三千八百本にもものぼる御用材の中で最初に伐採されるものです。

伐採法は「三弦伐り引落し」と称し、古来貴重な御木を伐るときに用いられている方法です。

このようにして伐採され搬出された御植代木は、先ず地元で赤誠籠めた奉祝祭が行なわれました。そして、上松町と付知町を出発した御植代木は、通過の沿道各地で奉迎送をうけ、ま

た、御泊りの所々では、祭典を行ない奉拝して盛大な奉祝の内に、多数の人々に送られ伊勢に向いました。多数の人々に送られ伊勢に着いた御植代木は、皇大神宮では宇治橋下から五十鈴川を曳き上げ、風日祈橋下で引き揚げられました。そこから、神職と造宮担当の職員が奉迎し、御木を修被して五丈殿に無事安置されました。この後一同は正宮で拝礼を行い、次に別宮を遙拝して終了しました。豊受大神宮でも北御門鳥居内で奉迎して同様、五丈殿内に無事安置されました。



(神宮出仕)

九月になりますと、続いて御船代祭が執り行なわれます。御船代とは、御植代を納め奉る御器のことを申し上げるのであります。この御船代を奉製する御船代木を伐採するに当り、その御木の本に坐す神にその由を申し上げ、作業の安全をお祈りする祭典が御船代祭です。この祭典は、古式により、皇大神宮では、風日祈橋を渡り左折して御川を上流に溯った宮山祭場で、一方、豊受大神宮では、山口祭の行なわれた宮山祭場でそれぞれ行なわれます。

祭儀は、大宮司以下神職と物忌が忌録で草木の刈初めと、忌斧で御木を伐る式を行ないます。同時刻、木曾の御植代でも伐採の式が行なわれます。

村田正和君 神青協御遷宮委員に選出

頭之宮四方神社村田君の村田正和君が、このたび、神道青年全国協議会理事に選出されるとともに、神青協「神宮式年遷宮の心を守り伝える委員会」の委員に選ばれました。神宮お勝元の三重県神道青年会にとりまして、名譽なことであり、会発展の意味からも、プラスであり、今後の活躍が期待されます。

三重の神社巡り (6)

横山石神神社

鎮座地 志摩郡阿児町鵜方八七四の二

御祭神 主祭神・天永龍王大明神 (天満大自在天神・菅原道真公)

国常立命

少彦名命

大己貴命

倭姫命

梅鉢

神紋 四月八日・十月八日

例祭 本殿拜殿二十坪、社務所十五坪、石神靈泉所(靈浴所)

十三坪、靈浴者休息所二十坪、神宮遙拝所、宝庫十坪

「大光明」碑一基・参拝者

用便所十坪

境内地 二、〇〇〇坪

宮司 尾間三郎

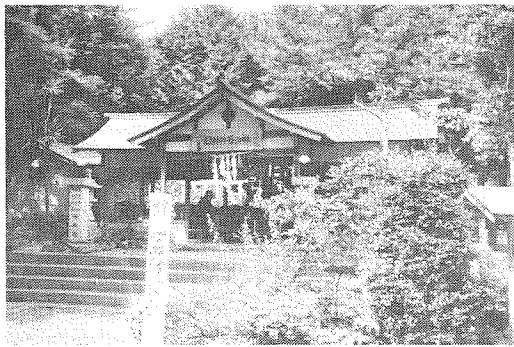
祢宜 尾間時弘

由緒 真珠のふるさと、伊勢志摩

国立公園、英虞湾を一望する横山の麓に鎮まり坐す横山石神神社は、今

を去る約八百六拾年前の天仁年間、

横山横山の東麓、地獄谷方面より南



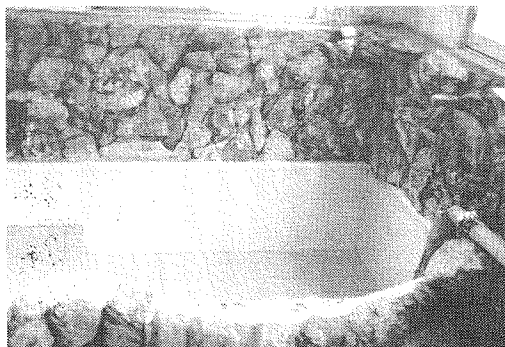
麓の大綿方面、旧渦見瀧地方に点在せる三十二戸の人民俱に大願心を起し一字を建立、伽藍を天照山圓城寺「大乘院」と号し、合せ境内鎮めの主神として天満大自在天神を「天神の社」に勧請するに遠因する。さらに文祿二年大乘院本堂坊舎とも出火の為全焼し、同四年横山山麓より平野部に移し再建するが、「天神の社」のみはそのままであった。その後度々造営修築を行なうが、天明年間に至り破却のまま造営せず、「礼拝石」ばかりとなるを大正十四年、敬神の同志復古をはかり、石神大神として奉斎する。

横山石神神社は交通安全・病氣平癒・家内安全・農業萬作・商業繁昌・漁業大漁、満願成就の「天神さま」として、近郷近在はもとより遠方からも参拝があり、一時は必ず願い事を叶えて下さるありがたい「石神さん」として、崇敬を集めて来ている。戦時中には、武運長久、戦勝祈願のため志摩郡中の出征兵士の神様、また、若い人達には縁結びの神様としても親しまれている。

又、当神社境内には、約六十年前に発見されて万病治癒に靈驗あらたかと伝えられる天然ラヂウム鉱泉、「石神靈泉」があり、石神大神様の神霊に浴して肩凝りはもちろんのこと、神経痛・リウマチ等の諸病治癒を願う老若男女の参拝客で賑わっている。

しかし、前の御造営から約五十年を経過していることもあって、御社殿、社務所等の腐朽甚だしく、昨年八月、崇敬者有志の皆様の尽力により横山石神神社奉賛会が結成された。取敢えず参拝者参集の為に、本年度一月に社務所、参拝者用便所の改修工事を終了する運びとなった。

- ・五月十八日 神宮宮掌田中範夫君 (三女) 貴子。
- ・五月二十一日 野辺野神社祢宜山中理君。(次女) 里恵。
- ・六月七日 志氏神社宮司富永主税君。(次女) 奈緒美。



そして、今後さらに石神大神様の御神徳により、社殿補修を始め道路の舗装等の境内整備、靈浴所を混浴から男女別々にする等、祭祀の厳修はもとより、伊勢志摩国立公園の一観光名所にすべく、横山石神々社奉賛会により着々と諸計画がすすめられている。

表紙写真説明

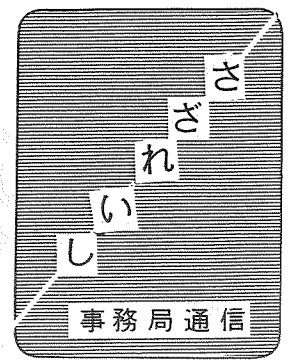
金銅五鈷鈴

多度神社宝物殿所蔵
重要文化財
平安時代後期

天平宝字七年(七六三)十二月二

十日、僧満願が多度神社の東に於いて、阿弥陀仏を祀り、修行していたところ、多度神の託宣を受けた。そこで満願は、多度山の南に小堂を設け、神像を造り、これを祀り「多度大菩薩」と称した(神に菩薩号を奉った最初の例)のが、多度神宮寺創立の由来である。その後、十数年の間に、三重塔二基・法堂・僧房等を建立し、伽藍を整え、『延喜式』に於いて国分寺に准ずる扱いをうけるまでに発展した。

中世には、神宮寺の規模は寺院数七十房・僧侶三百余を誇る大寺院であった。しかし、元龜二年(一五七二)、織田信長の焼き討ちに遭い、灰じんに帰した。長い間、埋没していたが、昭和四年、神社の東の山腹より偶然にも発見せられた五鈷鈴は、密教の法具で、諸尊を驚かせ、かつ覚醒させるために振ると云われる。当神社蔵の五鈷鈴は、鍍金も清淡で典雅なお且つ重厚な感じを有す逸品である。(多度神社権称宜桑昌弘)



第一回神青協

全氏青協合同研修会

神道青年全国協議会と全国氏子青年協議会の第一回合同研修会が、去る二月九・十日の両日に亘り京都右清水八幡宮青少年文化体育研修センターにて開催され、両協議会より計八十名が参加し、意見発表・講演・史蹟見学などが行なわれた。

この合同研修会は今回のはじめての試みで、神青協と全氏青協が協力して斯道興隆に尽くそうと、まず、相互理解と今後の運動についての共通認識を深めるために行なわれたのである。

今回は、第六十一回神宮式年遷宮奉賛活動について、「天皇陛下御在位六十年奉祝運動について」を開催主題とした。第一日目は、開会式の後、広江美之助京都大学元教授の「鎮守の森に集う若者たち」、又、幡掛正浩神宮教学研究室長の「神宮式年遷宮について」の講演があり、

その後、互方より四名ずつの代表が意見発表を行なった。第二日目は、石清水八幡宮に参拝し名所史蹟見学の後解散した。

尚、本県より、和田年弥神青協参与久我宮衛会員、杉谷博康会員、又、氏青協より町野会長他七名の計十名が出席した。

東海五県

神道青年連絡協議会

去る昭和六十年二月二十日、長野県松本市深志神社々務所に於いて、昭和五十九年度東海五県神道青年連絡協議会が開催され、本県より富永会長、原・村田副会長、樋口事務局員の計四名が出席した。

午後一時、正式参拝の後協議会に入り、当番県である長野県遠藤久芳会長、来賓としての深志神社林克三宮司よりの挨拶に続き、当番県の遠藤会長を議長として議事に移った。

まず、中央並びに各県の行事活動報告がなされ、続いて、①天皇陛下御在位六十年奉祝行事について、②第六十一回神宮式年遷宮諸祭行事への協力について、③神青協五県役員の改選について、④波照間島国旗掲揚塔の協賛金についての四事項について連絡協議された。

神青協中央研修会

昭和五十九年度神道青年全国協議会中央研修会が、去る三月五・六日の両日に亘り島根県大社町体育文化センターにて開催され、全国より三百余名の会員が参加した。

この研修は、神都伊勢に於いて、青年神職の切磋琢磨という原点にかえて開催されてより、早くも三年目を迎えた。伊勢での「祭祀の本義」京都での「まつりーまつりの感性6」のテーマを経て今回は、これらの成果に加えて「現代神道についてー『発生期の現代神道』を踏まえて」というテーマで開催された。第一日目は、開会式に続きテーマに添って、

上田賢治国学院大学教授の基調講演があり、続いて、『発生期の現代神道』の執筆者によるパネルディスカッション・質疑応答が行なわれた。第二日目は、早朝より稲佐ノ浜で禊を行ない、出雲大社参拝の後、小堀桂一郎東京大学助教授より「現代神道論」についての講演があり、レポート作成後閉会した。尚、本県より富永主税会員、村田正和会員、向井敏通会員、和田年弥会員、串崎紀典会員、工藤和義会員の六名が出席した。